

# 琉球大学学術リポジトリ

## 第2部自己点検・評価の結果

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-08-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/42150">http://hdl.handle.net/20.500.12000/42150</a>

## 第4章 施設・設備

本章では、大学教育センターの各施設設備について、①一般教室、②特殊教室、③図書館、④非常勤講師控え室に分け、現状と問題点、および改善案を論じる。[Y. M. 1]

### 1. 一般教室の状況

本節では一般教室に関して、主として次の3点を提案する。①わかりやすく情報提供する工夫をすること、②教員や学生が意見を言えるルートを確保すること。③視聴覚教室の割り当て方針を再検討すること。また、中・長期的課題として、机が移動できる教室の確保を提言する。

#### 1) 一般教室の稼働率および設備

共通教育に使用できる一般教室は、表Ⅱ-4-1の通り、全部で25室ある。ただし3号館にある14室は、1室を除いて収容人数50人の小教室であり、主に語学の授業に使われる。また、4号館の2室は、主に外国人対象の日本語・日本事情の教室となっている。

表Ⅱ-4-1 共通教育棟内の講義室の活用状況調査結果一覧表

階	部屋名称・番号	学科、講座名等	面積(m <sup>2</sup> )	稼働率(%)	空調機の有無
1	1号館・1-118	大学教育センター	182.52	60%	有
2	1号館・1-217	大学教育センター	173.52	71%	有
1	2号館・2-100	大学教育センター	114.08	54%	有
1	2号館・2-101	大学教育センター	152.1	60%	有
1	2号館・2-104	大学教育センター	152.1	57%	有
2	2号館・2-201	大学教育センター	152.1	57%	有
2	2号館・2-205	大学教育センター	182.52	54%	有
3	2号館・2-301	大学教育センター	152.1	49%	有
3	2号館・2-305	大学教育センター	182.52	54%	有
1	3号館・3-101	大学教育センター	60.84	60%	有
1	3号館・3-102	大学教育センター	60.84	60%	有
1	3号館・3-103	大学教育センター	60.84	63%	有
1	3号館・3-104	大学教育センター	122	46%	有
2	3号館・3-201	大学教育センター	60.84	51%	有
2	3号館・3-202	大学教育センター	60.84	51%	有
2	3号館・3-203	大学教育センター	60.84	43%	有
2	3号館・3-204	大学教育センター	60.84	60%	有
2	3号館・3-205	大学教育センター	60.84	43%	有
3	3号館・3-301	大学教育センター	60.84	71%	有
3	3号館・3-302	大学教育センター	60.84	51%	有
3	3号館・3-303	大学教育センター	60.84	54%	有
3	3号館・3-304	大学教育センター	60.84	60%	有
3	3号館・3-305	大学教育センター	60.84	57%	有
1	4号館・4-101	大学教育センター	63	49%	有
1	4号館・4-103	大学教育センター	63	31%	有
計			2482.48	55%	

各室の稼働率は、表Ⅱ-4-1にあるように、平均55%（最小31%～最大71%）である。ただしこの数字は、昼夜合わせた数字であるため、平成13年度前後期に関して、昼間主コース学生用の時間帯（1～5校時）と、夜間主コース学生用の時間帯（6～8校時）に分けて、教室の稼働率を算出した（表Ⅱ-4-2）（ただし、3号館に関しては、前期分のデータが電算化されていなかったため、省いている）。

昼間主の時間帯だけでみると、1・2号館（一般教室）は、前期69.3%、後期63.6%と、稼働率がかなり高い。3号館（語学教室）も64.0%と、稼働率がかなり高い。特に語学に関しては、多くの授業が月・木、火・金の週2回組まれているため、水曜日は、稼働率が必然的に低くなる（平成12年度後期の水曜日の1～5校時で言うと、全14室に対して、開講授業は21であり、稼働率30%）。したがって、月・火・木・金の稼働率は、実際には表の数字以上に高くなっているのが現状である。

施設の有効利用という観点からすると、教室の稼働率が高いことは望ましいことであるが、しかし、共通教育は、全学の教員によって行われるものである。稼働率があまりに高く、教室選択の自由度が低いと、共通教育を持つ意欲がある教員がいても、その他の仕事との兼ね合いで、授業がもてない可能性も出てくる。現状でも、授業時間割を編成するに当たって、教室割り振りに困難をきたしていると聞く。この現状を改善し、幅広い教員によって幅広い内容の共通教育を提供していくためにも、新たな教室が必要な時期に来ていると言えよう。

また、現状では、教室を割り振る際には、各教室とも、各系列（人文・社会・自然など）で利用可能な時間帯をあらかじめセットしておき、その範囲内で教室を割り振ることになっている。しかし表Ⅱ-4-2でみられるように、教室の稼働率がこのように高い現状にあっては、このような方針と併用して、系列ごとの割り振りを超えて教室を利用できる余地も残しておくべきではないかと思われる。そのようにしなければ、数に限りがある資源としての教室を、有効に利用することは難しいであろう。

表Ⅱ-4-2 前後期別の教室稼働率

平成12年度前期(1・2・4号館)

教室	1-118	1-217	2-100	2-101	2-104	2-201	2-205	2-301	2-305	
収容人員	156	126	108	126	126	126	156	126	156	平均
昼	76.0%	64.0%	72.0%	68.0%	76.0%	72.0%	64.0%	64.0%	68.0%	69.3%
夜	10.0%	10.0%	10.0%	30.0%	10.0%	30.0%	20.0%	20.0%	10.0%	16.7%
計	57.1%	48.6%	54.3%	57.1%	57.1%	60.0%	51.4%	51.4%	51.4%	54.3%

4-101	4-103	4-104	
48	48	20	平均
68.0%	44.0%	16.0%	42.7%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
48.6%	31.4%	11.4%	30.5%

平成12年度後期(1・2・4号館)

教室	1-118	1-217	2-100	2-101	2-104	2-201	2-205	2-301	2-305	
収容人員	156	126	108	126	126	126	156	126	156	平均
昼	64.0%	56.0%	68.0%	64.0%	60.0%	68.0%	56.0%	68.0%	68.0%	63.6%
夜	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	40.0%	40.0%	30.0%	10.0%	18.9%
計	57.1%	40.0%	48.6%	48.6%	42.9%	60.0%	51.4%	57.1%	51.4%	50.8%

4-101	4-103	4-104	
48	48	20	平均
60.0%	56.0%	48.0%	54.7%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
42.9%	40.0%	34.3%	39.0%

平成12年度後期(3号館)

教室	3-101	3-102	3-103	3-104	3-201	3-202	3-203	3-204	3-205	3-301	3-302	3-303	3-304	3-305	
収容人員	50	50	50	106	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	平均
昼	72.0%	68.0%	84.0%	52.0%	56.0%	48.0%	48.0%	68.0%	72.0%	72.0%	68.0%	60.0%	64.0%	64.0%	64.0%
夜	20.0%	10.0%	10.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	10.0%	0.0%	30.0%	20.0%	40.0%	20.0%	30.0%	19.3%
計	57.1%	51.4%	62.9%	42.9%	45.7%	45.7%	34.3%	51.4%	51.4%	60.0%	54.3%	54.3%	51.4%	54.3%	51.2%

各教室で利用可能な設備は、表Ⅱ-4-3の通りである。この表を見る限り、どの教室でも、教室備え付けではないとはいえ、各階の倉庫には十分な数の教育機器が用意されているように思われる。

表Ⅱ-4-3 共通教育棟1～4号館講義室の設備

建物	教室番号	収容人数	暗幕・ブラインド	スクリーン	OHP	スライド	ビデオ	テレビ設置	空調設備	備考
1号館	1-118	156	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	○	○	液晶プロジェクター
	1-217	126	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	○	○	液晶プロジェクター
2号館	2-100	108	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	机移動可
	2-101	126	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	
	2-104	126	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	
	2-200	50	暗幕・ブラインド	○	△	△	○	○	○	windows25台、mac25台、自習室
	2-201	126	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	
	2-205	156	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	
	2-300	50	暗幕・ブラインド	○	△	△	○	△	○	mac50台、実習室
	2-301	126	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	
	2-302	50	暗幕・ブラインド	○	△	△	○	○	○	windows50台 実習室
	2-305	156	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	○	○	液晶プロジェクター、 ピアノ常設
3号館	3-101	50	ブラインド	×	×	×	△	○	○	
	3-102	50	ブラインド	×	×	×	△	○	○	
	3-103	50	ブラインド	×	×	×	△	○	○	
	3-104	106	暗幕・ブラインド	○	△	△	△	△	○	
	3-201	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-202	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-203	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-204	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-205	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-301	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-302	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-303	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-304	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-305	50	ブラインド	×	×	×	○	○	○	
	3-403	48	ブラインド	×	×	○	○	○	○	ラボ室
3-405	48	ブラインド	×	×	○	○	○	○	ラボ室	
4号館	4-101	48	暗幕・ブラインド	○	△	△	○	△	○	
	4-103	48	暗幕・ブラインド	○	△	△	○	△	○	
	4-104	20	暗幕・ブラインド	○	△	△	○	△	○	
	4-301	15	ブラインド	×	×	×	○	×	○	windows15台
	4-302	8	ブラインド	×	△	△	○	○	○	ビデオ4台、テレビ4台、自習室
	4-305	42	暗幕・ブラインド	○	×	×	○	○	○	ラボ室、液晶プロジェクター
	4-306	48	暗幕・ブラインド	○	△	×	○	○	○	ラボ室、液晶プロジェクター

- ・○印は常設。△印は移動式
- ・OHP、ビデオ、スライドプロジェクターは視聴覚機材室で保管しています。(視聴覚機材室は、1号館は1階、2号館は各階、3・4号館はなし。視聴覚機材室の鍵は事務室で管理します。)
- ・3号館のビデオはLL教室で管理しています。
- ・4号館のビデオ、OHP、スライドは2号館の視聴覚機材室から利用してください。
- ・各教室の空調設備は事務室で集中管理しています。

しかし「教官調査」「学生調査」を見ると、事情は違ってくる。「教官調査」で言うと、調査項目17「施設・設備に対して、あなたは満足していますか」に対して回答した113名（共通教育担当教官）のうち、「満足である」と答えたものは42名（37.2%）、「不満である」と答えたものは71名（62.8%）であり、約2/3の教官が、大学教育センターの施設・設備に不満をもっていることが示されている。学生調査の方は、大学教育センター以外の施設・設備に対する不満も述べられているため、単純に数字は挙げられないが、いくつかの点では教官と共通した不満が述べられ、またそれ以外にも、大学教育センターで検討すべき問題提起が見られた。

では、寄せられた不満の中で、共通教育を円滑かつ効果的に進める上で重要と思われるものを取り上げて検討することにする。

## 2) マイクー速やかな対応をー

まず、教官と学生の双方に見られた不満として、マイクに関するものがある。「マイクが故障しやすい」「たとえば1-118のワイヤレスマイクの受信がおかしいが半年たっても改善されない」（教官）、「マイクの故障が相次ぐ」「マイクの調子が悪い。やる気が失せる」（学生）といったものである。些細な点ではあるが、多くの教室が100名以上収容の大教室であるので、このような問題には即対応できるような体制作りが必要であろう。

## 3) 組織的対応ー意見を吸い上げるルートの確保をー

教官の不満が多かったのは、事務の対応に関するものである。具体的には、「設備の使用方法がわからない。その設備に最も精通していると思われる技官・事務官に使用方法をたずねても「知らない」の一言ですまされている。これで本当によいのか」「マイク、その他の機器が全くない／あっても借り出す場所等の情報が全く与えられていない」などである。もし本当に対応に適性を欠く事務官がいたり、教員が共通教育等を行う上で必要な情報が得られないとすれば、大きな問題である。本来このような問題は、日常的なコミュニケーションの中で、具体的に何がどのように問題なのかを明確化し改善されねばならない問題であろう。それなのにこのような意見が今回の調査で出てきたということは、一つには、このような意見を気軽に言うことができるルートが、日常的に確保されていないためであると考えられる。したがってそのようなルートを確保することは、一つの改善策となりうる。具体的には、センター長宛ての目安箱でもいいし、大学教育センターのホームページが開設された際には、管理職レベルでこのような意見を吸い上げるためのメールアドレスを設ける必要があるであろう。なお、目安箱（意見箱）は現在も、共通教育等棟1号館の玄関に設置されている。しかし年間の利用件数は2～3件しかないという。今回の調査で、学生からも教官からも多くの不満がでたことから考えても、意見を吸い上げるルートは必要なことは明らかである。非常勤講師控え室も含め、目安箱の設置数を増やすとともに、その存在意義の周知徹底が必要であろう。またその際には、そこに投書された意見がどのように扱われ、どのように対処されたかについても、同時に告知することが、利用率を上げることにつながるであろう。

ただしこれは、問題を解決するために考えられる方策の一つでしかない。もう一つの提案は、次の項で取り上げる。

#### 4) 情報不足に由来すると思われる不満－わかりやすい情報提供を－

教官から出された不満として、「設備は何も用意されてない」「視聴覚器機が不足－ビデオ等」というものがある。実際には、表Ⅱ-4-3の通り、一通りの機器は使用可能であるので、これらの意見は、よく知らないことからきた意見と思われる。しかし、現在共通教育等を担当している教官からこのような意見が出ることは、大いに問題であろう。上の項で出てきた、「情報がない」「事務官が対応してくれない」という意見も併せて考えると、共通教育等を担当する教官が、共通教育等で利用可能な設備について一通り知識を得ることができ、また、使い方がわからないときに参照できるような、案内冊子を作る必要があるであろう。このような情報の提示と、上の項で提案した意見ルートの確保によって、共通教育等に関わる不満は、かなりの程度解消されるのではないと思われる。

#### 5) 教室割り当てに関する不満－視聴覚教室の割り当て方針再考を－

各系の科目企画委員長からの回答によると、教室割り当てに関して問題を感じている委員会はないようである。しかし、教官の不満からは、問題が存在することが読み取れる。

具体的には、「液晶プロジェクター設置の教室が固定されており利用できない（教室割振の自由度も少ないので）」「視聴覚教材をつかえる教室がかぎられている」「適当な広さの教室がない。100名程度収容の映像機器の完備した液晶プロジェクター、スライド等、使い勝手の良い教室がない」というものである。最後の「教室がない」という意見は、共1-118室と共1-217室の存在を知らないために出た意見と思われるので、前項で指摘したように、情報提供が必要と思われる。しかし一人目の意見にあるように、この教室の割り振りの自由度が低いことは事実である。それにはおそらく、この教室の歴史的経緯が関係しているものと思われる。これらの教室は、自然系教官室が多い1号棟にあるせいも、自然系科目や専門基礎科目で優先的に使われてきた。これらの教室に、ビデオやパソコン画面が投影可能な液晶プロジェクタが設置されてからも、液晶プロジェクタの設置が広くアナウンスされることはなく、従来どおりの方針で、自然系科目を中心に教室が割り振られてきた。したがって、自然系以外の教員は、このような便利な教室があることを知らないものもいるはずである。

しかし、液晶プロジェクタ設置以降は、これらの教室の意味は、単に自然系教官室に近い教室ではなく、視聴覚教室としての性格を持ったはずである。したがって、まずこの点を広くアナウンスするとともに、これらの教室の割り振りを、自然系科目や専門基礎科目に限定せず、必要とする教員に広く解放すべきであろう。その際、他の教室のように、各系ごとに教室割り振りを行うことは難しいし現実的ではない。すべての系を横断する問題として、大学教育改善等専門委員会などのような、個々の系の利害をこえた委員会がこの教室の割り振り権限をもち、使用したい教員の具体的な理由や授業計画を元に、教室割り振りがなされるべきであろう。

#### 6) 建物のわかりにくさ－案内板の設置を－

学生から多数出された不満として、教室の位置や建物の構造がわかりにくい、という問題がある。具体的には「最初、教室がどこにあるかわからなかったので案内板をしっかりとさせてほしい」「1号棟～4号棟が入り組んでいて、わかりにくい」「まだ教室をさが

すのにとまどっている」「めいろみたいで迷って遅刻」というものである。教官からも「建物がバラバラで、わかりにくい」という意見が出されている。その理由は、1号館の1階と2号館の2階がつながっていることや、各建物が、一般的にわかりやすい四角い形をしていない、という構造的な問題に由来するものであろう。しかし学生が求めているように、適切に案内板を設置するだけでも、問題は多少なりとも改善されるはずである。現在は、行き先表示板は一つもない。そこが何号館かという表示さえもない。1号館および3号館玄関に、案内板が1枚ずつあるのみである。

これは学生だけの問題ではない。琉大では、全学出勤方式を建前としており、これまでに共通教育等棟に足を踏み入れたことがなかった教官も授業を持つ可能性がある。そのときに、円滑に授業が行われるためにも、建物内の案内表示が適切になされる必要がある。

## 7) 中・長期的課題

以上の問題は、比較的短期的に対処可能と思われるが、それ以外に、短期的な対処は難しいが将来的には考えなければならない問題が、教官調査で指摘されている。それは、移動機の教室が少なすぎる、という問題である。具体的には、「机・イスが固定されていて、ディスカッションがやりづらい」「グループ学習用の教室でない」というものである。実際、机が移動できる教室は、共2-100室一室のみである。かつては、共2-200室、共2-300室と計3室あったが、これらはコンピュータ室に作り変えられてしまったため、現在は一般教室として使用ができない。

授業でディスカッションを導入している教員はさほど多くないかもしれないが、現にいくつかの授業では、この教室の特性を活かしてグループワークを導入した授業が行われている。また大学教育センターでは、FD活動の一環として2000年11月に中京大学の浅野誠教授を呼び、討論やグループワークを含む学生参加型の授業に関する研修会を開催したばかりである。今後、琉球大学における共通教育等の方向性の一つとして、このような学生参加型の授業も視野の一つに入れるのであれば、机が移動できる教室を確保することは、ぜひ必要である。

また、前述のように、現在は、視聴覚機器が備え付けられている教室は1号館の2室と2号館の1室のみである。しかし将来的には、教員が必要なときにすぐに手軽に視聴覚機器を用いた教育ができるようになるためにも、すべての教室に、液晶プロジェクタをはじめとした視聴覚機器を設置されていくべきであろう。

## 2. 特殊教室の状況

本節では特殊教室として、実験室、LL教室（ラボ室）、情報処理教室、運動場、図書館、そして、教室ではないが、授業運営をサポートする部屋として非常勤講師控え室の状況と問題点について検討する。いくつかの科目においては、教室増設の必要性が認められるが、当然利用できる資源は限られており、すべてを一度に満足させるわけには行かない。またこれは、それぞれの系列が自分の利害だけを求めて要求し改善されるべき性質の問題

ではない。琉球大学全体として、どのような人材を育成したいか、また、共通教育等としてどのような方向性を目指すかを考えた上で、大所高所から総合的に判断し、解決の方策を探っていく必要がある。

### 1) 学生実験室

学生実験室に関しては、以下の要望が提出されている。

物理学実験：授業後の保守点検のための人件費捻出に苦勞している。物理学実験の経験がほとんどない学生に対応可能な実験装置の改良が必要だが、経費がない。学生の多様化に対応するため、新規のテーマを開設したいが、実験室が手狭なため不可能。

地学実験：多様な実験ができるよう改造できれば望ましい。

化学実験：器具収納棚が老朽化している

これら、各科目の個々の事情をここで検討することは出来ないが、専門基礎科目企画委員会などで、各専門基礎科目や学部の教育理念・目標に照らし合わせ、必要な改善項目があれば、具体的かつ詳細な現状や問題点、改善案を提示・検討し、施設・設備の充実を図るための機会が必要であろう。

### 2) LL教室—中・長期的課題として、教室増設の検討を—

LL教室は現在、表Ⅱ-4-4の通り5室ある。

稼働率は、昼間主コースで平均69.9%、夜間主コースで平均53.4%と、きわめて稼働率が高い（最も高いときで80%）。この点については、教官および学生からも意見が出されている。「ラボ室の割り当てが少ない」「語学教育においてラボ室やビデオを使えないクラスがある」「授業時間以外では、ラボ室が使えない」（教官）、「外国語専用のラボ室を増やして欲しい」「語学の授業で十分にラボ室が使えない」（学生）というものである。この点については、中・長期的課題として検討する必要があるであろう。ただしその場合は、単に一系列の施設不足の問題としてのみ捉えられるべきではない。琉球大学の共通教育等全体の中において語学教育の理念をどう考え、どう位置づけるか、また、語学教育の中でLL教育をどう位置づけるかを、大学あるいは大学教育センターとして検討する中で、教室の必要性について考える必要があるであろう。

### 3) 情報処理教室—中・長期的課題として、教室増設の検討を—

情報処理関係施設の状況、備品、稼働率は、表Ⅱ-4-5の通り、である。この表にあるように、情報処理教室は2室、学生自習室が1室ある。情報処理教室2室のうち1室(2-302室)ではOSとしてWindowsが、もう1室(2-300室)はMachintoshが動いているが、話がややこしいのは、後者が大学教育センターの予算で運営されているのに対し、前者が総合情報処理センターの予算で運営されている点である。



表Ⅱ-4-4 LL教室の施設・設備

1. 収容人員

- a. 3号館LL教室 3-303 = 48名  
3-305 = 48名
- b. 4号館LL教室 4-305 = 42名  
4-306 = 48名  
4-301 = 15名 (CALL ラボ)

2. 各種備品

- (1) マスターコンソル
- (2) カセットブースレコーダー
- (3) ヘッドセット
- (4) カセットテープレコーダー
- (5) オープンテープレコーダー
- (6) ポータブルカセットレコーダー
- (7) CD・MDプレーヤー
- (8) CDプレーヤー
- (9) レーザーディスクプレーヤー
- (10) ビデオデッキ
- (11) モニターテレビ
- (12) パソコン
- (13) マイクロホン
- (14) 高速プリンター
- (15) スピーカー
- (16) 教材用ビデオテープ

3. 稼働率

表1

昼間主	3-403	3-405	4-305	4-306
11年度前期	76.0	80.0	72.0	64.0
11年度後期	72.0	76.0	64.0	64.0
12年度前期	72.0	76.0	72.0	52.0
平均	73.3	77.3	69.3	60.0

昼間主コース平均稼働率: 69.9%

表2

夜間主	4-305	4-306
11年度前期	50.0	50.0
11年度後期	50.0	50.0
12年度前期	50.0	70.0
平均	50.0	56.7

注: 夜間主は4号館のみ使用 (4-305, 4-306)

夜間主コース平均稼働率: 53.4%

そのため、ソフトが古いなどの問題点を「情報科学演習」担当教官が感じていても、要望が十分に反映されないなどの問題がある。また、機器の保守点検等に関しても、教官の要望が大学教育センター・総合情報処理センター経由で業者に伝わるため、レスポンスが遅く、十分なサポート・サービスが受けられないなどの問題がある。

情報処理教室のもう一つの問題点としては、教室の稼働率が挙げられる。表に見られるように、昼間主コースの時間帯で言うと、教室の稼働率は61%~91%と、非常に高い数値になっている。この点については、情報科学演習の世話人的立場にある教官も、「各教室の稼働率がせめて、50%近くにあれば、視聴覚機器を取り入れた魅力ある授業が提供できるものと確信している」と述べている。

表Ⅱ-4-5 情報処理関係施設の状況、備品、稼働率

a. 収容定員について

- ・302教室 50名 (パソコン機種:高岳製作所MiNTPC; OS:Windows98)
- ・300教室 50名 (パソコン機種:アップルコンピュータ iMac; OS 9.0)
- ・200自習室 50名 (パソコン機種:富士通FM/V, Macintosh)

b. 各種備品について

< 302 教室 ( Windows ) >

パソコン51台 ( 学生用50台, 教官用1台 )  
 Zip 装置51台 ( 外部記憶装置; 学生用50台, 教官用1台 )  
 ネットワークプリンター装置 5台  
 教育支援システム一式  
 資料提示装置1台 ( ビデオカメラで画像を取り込表示みさせる )  
 ビデオデッキ ( ビデオ再生・録画装置 ) 1台  
 大型モニター装置 ( 32インチ ) 2台

< 300 教室 ( Macintosh ) >

パソコン51台 ( 学生用50台, 教官用1台, サーバー用3台 )  
 MO 装置51台 ( 外部記憶装置; 学生用50台, 教官用1台 )  
 ネットワークプリンター装置 2台  
 教育支援システム一式  
 資料提示装置1台 ( ビデオカメラで画像を取り込表示みさせる )  
 ビデオデッキ ( ビデオ再生・録画装置 ) 1台  
 DVDプレーヤー 1台  
 スキャナー (画像取り込み装置) 1台  
 ビデオプロジェクター1台 ( 1500ANSIルーメン, SXGA 対応 )  
 大型スクリーン 1台

< 200 自習室 ( Windows & Macintosh ) >

パソコン・ワークステーション54台  
 学生用 ( Win 25台, Mac 25台 ), 教官用 ( Win 1台, Mac 1台 )  
 サーバー用 ( Sun WS 1台, Windows NT 1台 )  
 MO 装置 26台 ( 外部記憶装置; 学生用 25台, 教官用 1台 )  
 Zip 装置 26台 ( 外部記憶装置; 学生用 25台, 教官用 1台 )  
 ヘッドセット 52台, デジタルカメラ ( 画像・動画 ) 52台  
 ビデオカメラ ( 教室用モニター用 ) 1台  
 ネットワークプリンター装置 4台, 教育支援システム一式  
 資料提示装置 1台 ( ビデオカメラで画像を取り込表示みさせる )  
 ビデオデッキ ( ビデオ再生・録画装置 ) 1台  
 スキャナー (画像取り込み装置) 1台

c. 稼働率について

稼働率については、週5日間(月曜日・金曜日)につき昼間主コース(1時限目・5時限目)と夜間主コース(6時限目・7時限目)に分けてそれぞれ算出した。ただし、コンピュータシステムの保守に充てられている水曜日(3時限目・4時限目)は母数から除外している。

< 平成12年度前期 >

- ・ 302 教室 ( Windows )
  - 昼間主コース 91% ( 21/23 )
  - 夜間主コース 70% ( 7/10 )
- ・ 300 教室 ( Macintosh )
  - 昼間主コース 74% ( 17/23 )
  - 夜間主コース 40% ( 4/10 )

< 平成12年度前期 >

- ・ 302 教室 ( Windows )
  - 昼間主コース 78% ( 18/23 )
  - 夜間主コース 20% ( 2/10 )
- ・ 300 教室 ( Macintosh )
  - 昼間主コース 61% ( 14/23 )
  - 夜間主コース 20% ( 2/10 )

ただしこの稼働率の数値は、共通教育等だけに限ったものではない。専門教育科目が入り込んでいるために、共通教育等で必要とされる以上に稼働率が上がり、共通教育等科目の時間割編成の自由度を奪っている、という側面がある。共通教育等だけに限ると、たとえば平成12年度後期の昼間主コースの時間帯で言うと、302室で57%(13/23)、300室で35%(8/23)と、上記教官が適正と認める稼働率の範囲にほぼ収まっている。しかし、上で述べたようにこのうち1室が大学教育センターの管轄下でない点などもあり、これらの教室の使用を共通教育等だけに限定するというわけにはいかない。また、教室を増設すればある程度の問題解決にはなるが、これも、簡単に行えることではない。この問題は、中・長期的な課題として、また、共通教育等だけでなく琉球大学全体あるいは各学部の情報処理教育の位置づけの中で、検討されねばならない問題であろう。

もう1点、情報処理教室に関わる短期的問題として、メンテナンスの問題がある。大学教育センターには、各種委員会組織は存在するが、実際に共通教育等を担当する教官が配置されていないため、パソコン等の機器の管理・保守点検のための責任者が不在である。そのため、教室はほとんど清掃されることなく汚れ、一部の教官からのクレームが挙がるまで放置されているのが現状である。責任者が不在のため、定期的な点検・清掃等がほとんど行われず、プリンターの紙づまり、ホワイトボード用マーカー、印刷用紙、プリンターナー切れをはじめとしたことが放置されている。この点については、早急に授業担当教官および事務担当者等を交えて協議し、双方から世話係を出すなどして、できることから順次対応すべきである。

#### 4) 運動場

調査の中で、サッカー場に関する意見が複数出されている。それは、「教室には清掃される方がいるが運動場（サッカー場）は草刈りが不十分」「サッカー場に更衣室、トイレ、シャワー設備をいそぐこと」（教官）、「サッカー場が赤土でへんにかたまったりするし、よごれたらおちなくなる。砂かしばにしてほしい」（学生）というものである。これらについては、調査の上、適切な処置を講じる必要があるであろう。

### 3. 図書館の状況－夜間主コース対応を－

図書館では、共通教育等のためのサービスとして、図書館利用ガイダンス(Library Workshop)を行っている。これは、利用者が図書館利用をスムーズに行えるような、利用ガイダンスである。内容は、図書館ツアー（図書館案内）、資料・情報の探し方、入手のしかたなどで、図書館では、利用者教育として位置づけ、Library Workshopの名称で実施している。実施方法は、図書館独自で日程を設定して行う場合と、教官の依頼を受けて授業の1コマとして行う場合がある。なお、本年度後期には、これまでの実績をもとに「情報科学演習」のカリキュラムの一部に組み込んで実施する運びとなった。

図書館ではこのように、精力的に学生サービスを行っているが、しかし学生調査では、意外に図書館に対する不満が散見される。代表的なものとしては「図書館の本が少ない」

「図書館は本が探しにくい」「図書館をもっと長時間開けてほしい」というものである。前者2つは、学生の知識不足に由来する不満と思われる。というのは図書館では、学生の購入希望図書を、検討のうえ予算の範囲内で購入する制度があるからである。また、図書館のホームページにも「疑問やわかりにくいことがありましたらいつでもカウンターへご相談ください」という文言がある。

ただ、利用時間の延長は、特に夜間主コースの学生にとっては大きな問題である。現在図書館の開館時間は、平日が8:30～22:00である。夜間主コースの授業は、7時限目が21:10に終わるため、授業後図書館が利用できるのは、移動時間も考えると30分強しかない。また、レファレンスサービスは利用時間が8:30～17:00（土日はサービスなし）であるため、昼間に仕事を持っている学生は、まったくこのサービスを受けることができない。今後、生涯学習が広がっていくことが考えられるので、図書館の夜間主コース対応は、検討すべき重要な問題であろう。

#### 4. 非常勤講師控室－教育活動の場としての機能を果たす部屋を－

現在、非常勤講師控室は1室しかない。そこには、メールボックスや給茶機のほかには、長机と、イスが数個あるのみである。したがって現在はこの部屋は、授業前後の控室として、休憩をとったり食事をする程度のことしか行えないのが現状である。中には、ここでレポートチェックなどを行われる教員もいるが、スペースが限られているため、人が多いときには、そのようなことは非常に行いにくい。

しかし本来、教育活動は授業のみで完結するわけではない。特に最近は、オフィスアワーなどの設定により、授業外での学生指導が必要とされている。このような要請に対応するためにも、もっと広いスペースを持ち、同時に複数の教員が学生指導などを行える非常勤講師控室の設置が望まれる。